

河川工作物アドバイザー会議経過報告・今後の予定

1 今年度取り組む主要項目

(1) 河川工作物の改良について

① 第2次検討ダム

改良すればサケ科魚類の生息環境等の改善が図られる可能性があるものの、改良に伴う防災機能等への全体的な影響が大きいため「現状維持」と評価した河川工作物35基について昨年度レビューを開始し、5河川16基を対象として検討を行っていく予定。

このうち、先行的に検討してきたオッカバケ川2基（林野庁）とモセカルベツ川1基（北海道）については、昨年度までの現地検討や漁業者との意見交換を踏まえ、今後、改良方法の検討を深める予定。

② ルシャ川ダムの更なる改良

3基のうち2基について平成18年度に切り欠き等の改良を行ったところであるが、第36回世界遺産委員会決議を踏まえ、これまで更なる改良の実施について検討してきたところ。

今後、具体的な改良方法等の決定に向けた水理模型実験等を進める予定。

(2) 第39回世界遺産委員会決議に係る対応について

本年6月から7月にかけて同委員会が開催され、知床に関する決議が採択された。当該決議に対する対応を検討するとともに、2016年12月1日までに世界遺産センターへ保全状況報告などを提出する予定。

(3) モニタリング調査の実施について

① ダム改良モニタリング：羅臼川、モセカルベツ川（サケ科魚類の遡上と産卵状況）

② カラフトマス遡上長期モニタリング：ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川（親魚遡上数、産卵床数）

③ 河川水温計測：遺産地域外を含む37河川

④ オシヨロコマ等淡水魚の生息状況調査（外来魚を含む）：8河川

2 河川工作物アドバイザー会議の開催予定

(1) 第1回 2015年10月14日～15日（斜里町で開催）

- ・ルシャ川の現地検討及び今後の取扱いについて
- ・世界遺産委員会決議に係る今後の対応について
- ・長期モニタリング項目の評価について
- ・第2次検討ダムについて

(2) 第2回 2016年1月末～2月（予定）（札幌市で開催）

- ・ルシャ川ダムの取扱いについて
- ・世界遺産委員会決議に係る対応について
- ・第2次検討ダムについて